

新入園児を迎える

東京都台東区立清島幼稚園長

松 石 治 子

一、園児募集と入園

終戦後幼児教育の重要性が一般の人々に認識された結果、公私立幼稚園の志願者が非常に多く、殊に都内公立幼稚園は、募集人員の四倍から八倍と云う応募者であります。公立幼稚園は園児数と教員数が区の管理の下に決定されて居りますから、私立幼稚園の様にその状況に依つて無理をしても一組増加する等と云う事は出来ないであります。区の予算の枠内で其の年度の経営をして行くのでありますから、応募者が多いと全く困却するのであります。募集人員が限定されそれ以上はどうする事も出来ませんから、折角幼稚園教育を受けさせ様と熱望して来た親達に納得の出来る様な詮考方法を考えて行かなければなりません。公立幼稚園は大体東京都では小学校と併設の場合が多いので、幼稚園修了のあとに来る入学と云う事を考えての希望者が大多数であります。

詮考は各園の事情に依つてテスト、身体検査、或は抽籤等種々ありますが、あの頑是ない幼児たちが、今から試験地獄になやまされ

ると云う様なことの無い様に、只、幼児の発育の程度が集団生活に適するかどうかと云うことを簡単に一応しらべて、あとは抽籤で決めることが好ましいのではないかと、現に私の区では十ヶ所の公立幼稚園が申合せて最も公平なしかも幼児に適した詮考方法を研究実施する事になつて居ます。

園長は何と云つても入園に関しては頭を悩まし、従来の種々の關係、知己を頼つての強硬な入園談判にはほとく閉口し、入園者決定の前には往來も歩けない仕末となるのであります。庭の隅でも廊下でもよいから置いてくれの類もあれば、親子での泣落し、お偉い方からの紹介状或は直談判、過激なのは座り込み等、公立幼稚園の正しい性格を知らない人達に説得したり、頼んだり、終にはこちらが拝み度くなるような場面も出て来ります。

親の方でもこの節は少し考えて、区当局への陳情、請願或は教育長への直談判など、園長では駄目と分ると戦術をかえあの手、この手これも子を思う親の愛情乍ら、受入れる幼

稚園の少いことが第一の原因でありますから、幼稚園が小学校に全部附設される將來を何とかして開拓して行くことが目下の急務と思はれます。

二、父兄の啓蒙について

何十人に一人と云う幸運の園児は、家でお赤飯のお祝いにいよく入園の段取りとなります。親等は「これで安心、入学にも楽だから」と思っているわけではないでしょうか。親に向つて「何の為に幼稚園へお入れになりましたか」と問いますと、答は至極簡単です。「兄弟が学校へ行つているから連れて行くのに丁度よい」「家に居るとお金許り使つているから」「お店が忙しいから」「学校へ上る時楽だから」等はまだしも「家にいるとうるさいから」とは驚いたものです。尤も地域に依つてもつと幼児期教育の重要性を考へて入園する人も多いと思ひますが、私の幼稚園の場合には全く呆れてしまう様な事が多いのであります。

幼児を預つたら先づ親の教育から手をつけなければならぬことを痛切に

感ずるのであります。新入園児の父兄打合会は少くも入園前の一ヶ月前位には開き度いものであります。父兄は「幼稚園」と云うもの、使命を殆んど知らないのです。自分達が昔経験したところのある幼稚園生活をもとにして考へている人もあれば、保育所と間違えて居る人もあります。打合会には園長や教諭は出来る丈け分り易く幼稚園教育の目的や方法等について話し合う様な心構えがなければなりません。又これについて正しい理解の出来る様な資料、たとえば身長や体重のグラフや、行動記録や予定案、或は幼児の製作物や年間行事の写真、園報等を用意して、実物に従つて説明して行きます。親等の幼稚園を知つている範疇は殆んど皆無であるつもりで當つて行かないと思はぬ失敗があります。この場合一応は下調査しておく事も必要と思ひます。これは次にお話し様とする「家庭生活調査表」に依つて見当をつけることが必要であります。

調査表は入園確定と同時に配布して、直ぐに記入してもらいます。この調査表は公立幼稚園研究部で考案されたもので、非常によい資料となります。その主な項目をあげますと

次の通りとなります。

幼児及保護者については、出来る丈け正確に委しく記入する様な欄を設け、家族、住居、環境及養育の状況を調査いたします。又健康についても既往症は勿論、罹り易い病氣も記入してもらい、生活の様子は、あそびとかお小遣や玩具等を始め幼児の性質について書入れる欄があり、家庭での教育方針や幼稚園に対する希望等を卒直に記してもらつて居り、園から家庭までの略図を書くための大きい欄もあります。この調査表は非常に後々まで役立つものでその効果は大きいものであります。

父兄が幼稚園教育の目標をおぼろげ乍ら意識すると、親が子に対する之からの方針が決つて来ます。今まで大きいのお乳を飲んで来た子供も、その日から悪い癖を止めさせられ、お小遣いをせびつていた子供も幼稚園へ行かれませんか。一言で使はなくなる等だんく入園の心構えが親にも子にも又家人にも滲透して行きます。斯うしたことに依つて幼稚園の協力態勢が刻々出来上り、幼稚園では

その教育の第一歩がしつかりと踏み出されたことを感ずるのであります。

三、新入園児と教諭

親たちの程よい躰に、緊張とよろこびに息をはづませた新しい入園児は恐る／＼幼稚園の入口へ参ります。教諭は下駄箱の名札の位置を大体覚えておいてこやかに幼児を迎え入れます。胸には子供の名前が下げられて居ます。組の色分けも出来ている。教諭は「あゝあなたは〇〇さんね下駄箱は、こゝですよと優しく名前を呼んで、一人／＼導き入れま

す。「先生おはよう」と親に促されて云う子供に教諭は一人／＼受け応えます。柔かい手はいつかしつかり先生の手を握り、足はいつしかレコードの流れるお部屋へと踊ります。

一生の内の社会生活の第一歩の踏み出し方を手伝う教諭さんの胸には教育愛の熱いよろこびが一ぱいにひろがって行くことでしょう。「お附添は送り迎え丈に止めて下さい」こんな貼紙で第二日目にはあつさり父兄陣は退却、そ

の後が一寸泣いたり逃げ出したりの余興もありますが面白い保育内容に引入れられて、時間の経つのも忘れる程になるのは三四日後であります。

教諭さんはこの間はそれこそ文字通りの悪戦苦闘、しかし背後の親の協力があればこそ一日と自分の手の内に入つて行く幼児たち、可愛い歌声にほつとする垣根の外の母親たちは、突のところ、自分達の方が幼稚園へ入つた様な感激をもつて居ることでしょう。

「〇〇さん」「はい」とはつきり返事の出来るよう「こゝにあるお靴はだれの」「〇〇さんが出したばなしをしたの」「〇〇さんお靴は自分の下駄箱へちやんと仕まうのよ」と一人一人を親切に叱らずに導くことや「〇〇さんお鼻の下は？」と注意したり、教諭さんのお仕事は美に大変なものです。

どんなに骨が折れる仕事でも、どんなに面倒な仕事でも、いつもだまづてにこゝと一生懸命に努力する教諭さんは、その手がける幼児が集団生活に慣れることの早さに驚かさず、親等の感謝に包まれて教育することのよろこびをその人はいつでも持つているの

です。一年或は二年間の幼児との生活の結び付きが其の第一日目から順調に行くことがどんなに大切でありましょう。それには教諭さんの心掛けの良さがうかがわれるのです。周到な用意、熱心な研究、円満な人格、そうした要素が絶対に必要だと思ひます。

四、集団生活への導入

生れて始めて大勢の中へ入つた新入児たちは、一人／＼の身になつて考えて見るとまことに涙の出る程にちらしいものなのです。「お母ちゃん、お母ちゃん」と何もしないで泣き続ける幼児を、若い助手さんは持て余して自分も泣き相なのです。同情すると涙が出ると云うのです。この様な幼児は今までの家庭教育が間違つていたのだと考えさせられますが、又一面からは発育がおそいのではないかと云うことも観察して見なければなりません。幼稚園は楽しいところ、と云う気分を持たせる様に、保育の予定案は立て、行かなければなりません。

こゝで一寸入園式の事にふれて見度いと思

います。入園式と云うのは幼児が園児として入る儀式でありますから、全部が楽しい遊びと云う訳にはまいりません、しかし第一歩の集団生活に失望落胆のない様にしてやらなければいけないと思います。入園式は本当は大人の気休めの様な気がしてなりません。何故なら園長さんが園児に挨拶するのはつげ足りで父兄や来賓に長々しいお礼の言葉を云う。父兄や来賓は無やみに園長や、幼稚園を褒め上げる。幼児にとつては有難めいわくで、「こんな幼稚園なら来るのでは無かつた」と心の中で思うかも知れない。生れてからそんな長時間の椅子に腰掛けた事がない、そんな長いむづかしい話を聞かされた事がない、御機嫌が悪くなるのは当り前だと思いません。

新入児を楽しませる工夫をしてほしいと思います。お土産も早く渡して疲れない内に明日を約して帰す方が、どれ程効果的か分りません。園に依つては幼児を前に置いて、保育方針や注意事項等を持ち出し二時間も三時間も費す所がありますが、これは反省すべきで若し父兄へ話があれば別の日か、パンフレットにして配布する事がよく、入園式はあくまで幼児保育の出発第一日目として、教育的に行い度いものだと思います。

仲々集団の中で気楽に生活して行くことが出来ません。ですから最初は出来るだけ遊び友達を利用してなれさせるようにすると、大変助かる面もあります。

又教諭は出来るだけ早く幼児の名前を覚えなければなりません。そのためには父兄にたのんで二週間同じ服装で登園してもらふ事も秘伝です。又早く特徴を捜し出してそれで覚えて行くのです。毎日一度は必ず出席簿によつて名前を呼ぶ事も忘れてはなりません。

さて保育内容は始めは知つてゐるものから始めることにいたします。唱歌はレコードやピアノでお手々つないでや、夕焼小焼の様なもの、これに合せて歌つたり拍子を取つたりさせます。団体あそびは、かごめ／＼の様な歌あそびを繰返している内にリズムをとる事も覚えて来ます。紙とクレヨンをあたえて好きな絵を描かせる、簡単な紙芝居をする、折紙を撒いて拾はせて、色のあそびをしたり幼稚園の中をみんなで並んで歩いたり汽車ばつ

ぼになつたり、お花になつたり、蝶になつたり、カスタンネットのリズム打ちをしたり、毎日楽しい雰囲気にはたらせている内に、遊ぶ時間も一時間から二時間、三時間と延して行きます。

この間に在園児の唱歌や遊戯、人形劇等を見せて貰つたり、在園児と手をつないで一寸散歩に出たりする事も大切なことです。又在園児の作つた製作物をお土産にもらつたり、出席カードを貰つたりしてお家へ持ち帰ることのよるこびも大きいものですから、入園して一週間位は、何かしら持ち帰つて親に話しの出来る材料を考へることが大切です。これに依つて、幼稚園と父兄とが子供を仲立ちとして結び付くきつかけが出来ます。父兄の中には、子供が何をしているか見度くてたまらず園舎の中へ入つて来る人もありますが、一人の親が来た為保育が目茶目茶になる様なこともありますから、子供がすつかり落着くまでは来てもらはない様によく注意しておき度いものです。

尙最後に遊具について考へて見度い

と思います。園舎内外の遊具は新入児にとつて誠に珍らしいものであります。ブランコへも乗り度い、入り台へも乗り度い、と夢中で遊びまわる子供があります。動く遊具或は動かぬ遊具とどちらも危険は多いですが遊具の使い方の方の躰が徹底するまでは充分な監督が必要であります。殊に動く遊具は、乗っている者よりも周囲に立つている者の方に危険の多い場合があります。目をはなさぬ様にしなければなりません。若し手不足の場合は一ツの遊具丈けを使用させて順々に乗り方を指導して行くことも大切なこと、思います。

又遊園の草木、池等もいろいろ注意が必要であります。又園舎の入口や通用門等の開閉、或は管理にも余程上手な注意を払はないと、無断で帰つたりして交通事故があつたり、又おかれて登園して門が閉つていたので幼稚園が嫌いになつたり、新学期の問題は考へ出せば数限りなくあります。

新入園児を上手に導入するには何と云つても多年の経験を持つ園長或は主任の技量であります、それと併行して、体をよくゆかせ

る若く明朗な教諭、誰にも好かれる様な親切な小使さん、それに満腔の信頼を持つ父兄たち、そうした条件が備われば、明日の日本の建設者としての児童の教育の第一歩は、こゝにしっかりと踏み出されるであります。

新入園児について何か書く様にとのお話で思つた儘を書き連ねましたが、公立幼稚園の現況については、私自身まだ就任後日が浅く充分に知りませんので、或は当らぬことが多いかと思いますが、台東区の私の園の立場から書きましたのでその点お考え違ひの無い様にお願ひ申上ります。尙新入園児の取扱其他に関しては過去二十八年間の体験から記して見ました。御教示を頂けば幸いです。

(筆者、台東区立清島幼稚園長)